

卒業に寄せて～「慧眼」を養うということ～ | 校長 原田 豊



卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんのこの3年間は入学式のリモート開催に象徴されるように、コロナの影響を直接に受け続けた3年間でしたが、皆さんは、私がコロナ騒動の始まりにおいて、未曾有の事態の中を生きた同時代人として、コロナにまつわる社会状況をつぶさに観察し、できれば記録していこう、と言ったのを覚えているでしょうか。その記録は、日本が抱える問題点の快出に繋がり、次世代を生きる皆さんの思想の強化にも資するとも言いました。さて今、皆さんには日本、乃至世界の問題がぼんやりとでも見えているでしょうか。問題点の見え方は人それぞれでいいのですが、私の眼に映じた景色を少しお話しします。私がこの3年間で強く感じたことは、専門性の追求は大切だが、専門外のことにしても本質を見抜く洞察力、所謂「慧眼」を養うことはもっと大事なことだということです。私はコロナの件について、ある時期から専門家というものの言質にちょっとした不審を持つようになりました。報道

の姿勢についてもそうです。PCRとはそもそも何かとか、感染者や死亡者についてもその数をただひたすら告知するだけで、数の持っている詳細な情報については語られません。これでは「本質」について迫ろうという姿勢が見えないと言われても仕方ないのではないかと。停滞を余儀なくされた経済の保証の問題についても、事業者に全く瑕疵のない問題で困窮しているという本質が軽んじられているように思えてなりません。皆さんはこれから専門性を高めるための旅に出るわけですが、同時に本質を見抜く鋭い洞察力、「慧眼」を養う努力も大事にしてほしい。そのためには「人間通」になることです。「人間通」になるには、一つにはたくさんの名著、できれば人間性の深淵に迫る文学・歴史書を読むことです。そしてもう一つは友と語り合うことです。夜を徹して議論に興じるような、熱い人間関係や経験を大事にしてください。皆さんの奮闘を心から応援しています。ちょっと疲れた時などにはいつでも母校を尋ねてきてください。都市大等々力は、ノブレス・オブリージュの精神を持つ皆さんを、いつでも温かく迎えます。

卒業される皆さんに贈る言葉 | 保護者の会 会長 天野 毅



高校三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。卒業される皆さんは大きな希望を持ってワクワクした状況であると共に、心身共に大きく成長できた等々力生活であったことを実感されているのではないのでしょうか。これから皆さんは大人としての一步を踏み出す事になります。この学校の教育理念“noblesse oblige”を心の中に保ち、卒業後もそれぞれが選んだ道で実践に活かし、毎日精一杯努力できる環境に感謝して、楽しんで下さい。今後、長い人生の中では様々な事が起きてくると思います。大事な事は、起きた事は全て自分にとって“意味のある事”だと思えるかどうかです。それにより次の展開がポジティブに変わってくるという事を忘

れないで下さい。今の君たちには大きな可能性があるのです。何にでもトライする事ができます。“君の努力は必ず報われる！”君たちの人生は長く楽しく、時に厳しい旅です。努力しつづけていけば、必ず今日よりも明日、明日よりも明後日が楽しい素晴らしく、納得できる結果がついて来るでしょう。日本は、先人達が作り上げてきた豊かな文化と、真面目な気質の国民性に支えられる世界でも屈指の素晴らしい国であり、その豊かな環境の恩恵を受けているという幸せな事実を受け止めて下さい。そして、この国の将来を君たちが背負って行くのです。君たちが世界へ羽ばたき、今後も戦争が起きない平和な世界になるように、それぞれが精一杯活躍していく事を期待します。卒業生の皆さんの健康と輝かしい未来を、心よりお祈り申し上げます。

# ケニシロウ

2010年より12年にわたり樋口先生に表紙のイラストを描いていただきました！



139号2010年7月



159号2017年11月

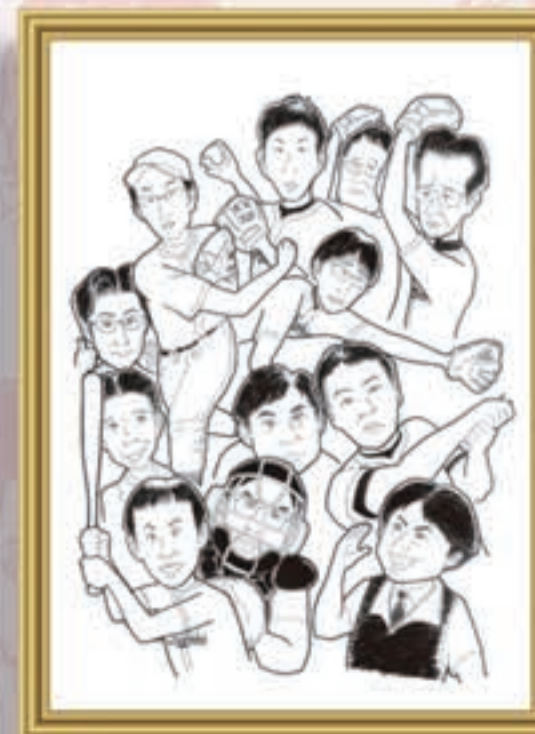


167号2021年3月

## 2023年3月卒業号



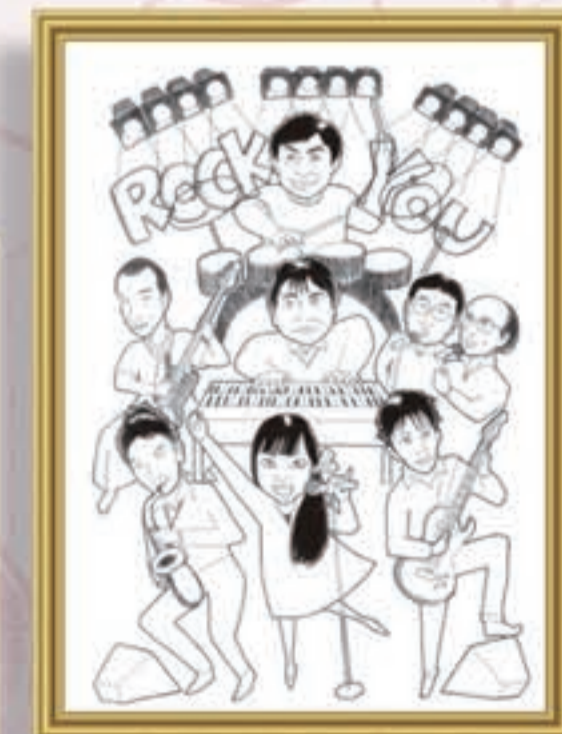
162号2019年3月



160号2018年3月



169号2022年3月



143号2011年12月

### 編集後記

ご卒業おめでとうございます。卒業号を発行するにあたり、原稿を寄せていただきました先生方に厚く御礼申し上げます。入学式もオンラインで始まった高校生活。行事や部活・クラブ活動も従来の様に行えず、思い描いていた高校生活ではなかったかもしれませんが、中でも催行された藍桐祭や修学旅行などの行事を通し、かけがえのない仲間と共有した一瞬一瞬を詰め込みました。卒業号を通してお伝えできれば幸いです。最後に保護者の皆様にはこれまでの保護者の会の活動にご協力頂きましたこと、御礼申し上げます。

私が描きました！



樋口 久仁 先生

堂々とは言えませんが、私が中高生の頃、授業中にノートを執るフリをして、よく先生の似顔絵を描いて練習しておりました。そんな修練の歴史を持つ趣味でしたから、本来教育現場で日の目を見るべき代物ではございませんが、皆さまに心温かく受け入れていただき、長いこと会報誌の表紙を飾らせていただきました。本当にありがとうございました。